

## 視察報告

(湯浅 正志)

### <視察概要一覧>

| 視察月日                 | 視察先                 | 視察施設                                | 研修内容                                        |
|----------------------|---------------------|-------------------------------------|---------------------------------------------|
| 令和8年<br>5月12日<br>(火) | 鳥取県鳥取市富安<br>二丁目     | 鳥取市健康こども部<br>こども家庭局こども<br>家庭センター会議室 | ・助産師による産前産後ケア<br>保健師・保育士による子育て<br>家庭の支援について |
| 令和8年<br>5月13日<br>(水) | JA 広島厚生連 尾<br>道総合病院 | JA 広島厚生連 尾道総<br>合病院応接室              | ・すい臓がん早期発見プロジ<br>ェクトについて                    |

### <視察目的>

日本の人口は平成20年をピークに減少を続け、その要因の1つに出生率の低下があげられている。人口減少対策の基本は結婚・出産・子育てを総合的に支援して行く事が重要と考え、「妊娠・出産包括支援モデル事業」を一早く取り組まれている鳥取市へ「助産師による産前産後のケア、保健師保育士による家庭の支援」について視察し、安来市の出生率向上に繋げたい。

また、癌の死亡率は膵臓癌が依然として予後不良な悪性腫瘍として位置づけられている。JA 広島厚生連 尾道総合病院では膵臓癌の早期診断を目指す「尾道方式」考案され、このプロジェクトにより全国的な成果を上げ注目されている事から、安来市に於いてもいかなるものではないかと考えたため。

### <研修概要報告>

#### 1. 鳥取県鳥取市富安二丁目 138 - 4 市役所駅南庁舎 1 階 こども家庭局会議室

- 対応者：健康こども部こども家庭局局長兼課長 こども未来課課長補佐  
こども家庭センター所長 こども家庭センター子育て支援係長  
こども家庭センター所長兼児童相談係長

- 概 要：妊娠・出産包括支援モデル事業の取り組み事例の説明、妊娠出産包括支援事業・母子デイサービス事業、併せて鳥取市のこども計画・事業の紹介を担当課から説明を受けた。

## ＜考 察＞

妊産婦等への支援ニーズに応じ、たとえば妊産婦の体調不良、育児不安がある方に対し母子保健コーディネーターが支援を行い、産前産後サポート事業として相談支援をその分野に応じた助産師・保健師・保育士等が家庭訪問、電話等により発達・養育に関する相談を受ける仕組みを構築してあることは妊産婦の方とすればとても心強いと思った。一方で、産後ケア事業としてショートステイ型・デイサービス型・アウトリーチ型の事業を実施され、事業実態としては出生率が低下しているにもかかわらず年々利用件数が増加傾向との事であり、利用者支援事業にて継続支援が必要な妊婦さんには個々に応じた支援を行っているが、支援が必要な妊婦さんの数も増加しているようだ。即ち身近に支援者がいない妊婦さんが増えているという事も問題であると考えます。

また、妊娠期から子育て期にわたって、総合的な相談支援を行う窓口として「こそだてらす」が設置され専任の助産師が妊婦さんや子育て期の悩みや相談を受け、医療機関や関係機関と連携した支援を行われていた。生後2ヶ月から6ヶ月までの乳児（第1子）とその母親を対象としたふれあい遊びや育児相談などを行う「ひだまりサロン（産後サロン）」が併設され、とても明るく利用しやすい施設となっていた。

鳥取市は、全ての妊産婦、子育て世帯を対象に児童福祉と母子保護の一体支援を行う機能を有する機関を設置し、子育ての伴走支援を行っていることを理解した。

安来市でも同様な事業は行っているが、鳥取市のモデル事業の様に子育てにもっと伴走出来る事業展開を進めることが今後の課題であると感じた。



## 2. 広島県尾道市平原 1-10-23 JA 広島厚生連 尾道総合病院 応接室

●対応者：JA 広島厚生連 尾道総合病院 副院長 内視鏡センター長  
花田敬士医師

●概 要：尾道方式：膵がん早期診断モデル（地域連携で診断の遅れを縮める）  
について資料を基に説明を受ける。

### <考 察 2>

膵臓は、胃の後ろの体の深部に位置していることから、がんが発生しても症状が出にくく、早期の発見は簡単では無いと聞いていた。しかし、花田医師は見えない膵がんを追い続け、膵がんは「かたまり」として見つかった時は手遅れだから見えるようにすることに挑み続けこの早期診断モデルが考案された。このモデルには地域連携型診断システムにより、診療所で対象者を拾い上げ、次に医師が迷わない明確化した紹介基準により中核病院での精密検査に診断の流れを設計したものが尾道方式である。医師会・診療所・中核病院・行政の4つの役割分担を明確化にし、連携して膵がんの早期発見を実現されていた。

尾道市ではこの仕組みが定着した結果、膵がんの早期発見率が劇的に向上し、5年生存率が14.9%から20.7%まで予後改善となっている。

現在は、この病院連携を生かした取り組みは国内30か所以上で同様の取り組みがなされているようで、近隣都市では松江市が「尾道方式」で行われている。因みに、花田医師は島根にゆかりがあり、安来市から市議会議員が視察に訪れた事を大変に喜んで頂いた。

私たちの周りの膵がんで病まれる人が少しでも減り、早期発見が出来る安来市を目指す事が必要と実感した。

